



特集

東日本大震災 被災地への 支援活動

Vol.9
CONTENTS

●P1 特集 ◎ 座談会

大学として どのような支援を行ってきたか

●P4 特集 ◎ 支援活動

大阪市立大学医学部附属病院による 医療支援の取り組み

●P5 市大人 アクティビティ

川口 加奈さん／経済学部3回生
桜井 貴史さん／商学部4回生
清水 理佳さん／数学研究所 所員

●P6 OCU information

第2回 国際ラウンドテーブル会議
「都市の世紀を拓く」国際シンポジウム
「災害後社会とアーツによる地域マネジメント」
ほか



大学広報室にて

● 座談会 ●

大学として
どのような支援を
行ってきたか

3月11日に発生した東日本大震災に対して、本学も被災地への支援等について様々な情報収集と検討を行いました。その中の1つに被災地への学生ボランティア派遣があります。これまで、岩手県釜石市に7月1日から4日にかけて第1次学生ボランティアを、続いて第2次(8月9日~12日)、第3次(9月16日~19日)と派遣しました。今回の座談会では、学生たちに実際に現地でボランティア活動を行って、どんなことを感じたのか語っていただき、学長・両副学長には大学の想いや今後の取り組みなどについてお話しいただきました。



座談会出席者

にしざわ よしき
西澤 良記 学長きりやま たかのぶ
桐山 孝信 副学長みやの みちお
宮野 道雄 副学長

司会進行

わきかわ ゆきこ
脇川 友紀子さん
法学部4回生/1次隊参加
ボランティアセンター“ボラカフェ”学生スタッフ代表たい あつこ
田井 温子さん
工学研究科1回生/1次隊参加いまお しょうたろう
今尾 聖太郎さん
工学研究科2回生/2次隊参加かけはし こうじ
棧 光司さん
法学部1回生/3次隊参加東日本大震災当日、
衝撃を受けた
津波の映像

西澤 良記 学長

脇川 まずは震災が起こったときにどこで何をしていたかということから、皆さんにお聞きしてもよろしいでしょうか。

田井 私は家にいました。帰ってきた母親に「地震に気づいた?」と言われたのですが本当に?という感じでした。

今尾 研究室で研究をしていました。工学部棟の2階にいましたが、急にまわりのみんなが「気分が悪い」と言い出して。たぶん地震が長周期だった影響だと思うのですが、僕も含めてみんな、乗り物に酔ったような感じでした。テレビを見たらすごいことになっていました。

棧 市大の合格発表の2日後だったので、まだ地元の高知県にいました。友達とショッピングモールにいて、ホールに設置された大きなテレビの前に人だかりができていたので何だろうと思って見てみたら、ニュー

スの津波の映像でした。最初は本当に映画か何かだと思っていて。家に帰ったあとに地震が起きたことを知ってとても驚きました。高知では全く揺れを感じませんでした。

西澤 東京にいて、ビルの4階で会議をしていたのですが、かなり揺れました。ちょうど阪神大震災のときが大阪で震度4でしたから、あのぐらいは揺れましたね。帰宅困難者に巻き込まれて、東京から帰宅するときは大変でした。

桐山 高原記念館2階で会議中でした。会議の出席者は9人いたのですが、9人もまったく気がつきませんでした。地震が発生してから30分ぐらいたって、携帯に連絡をもらいみんな驚きました。

宮野 学術情報総合センターの6階にいました。10階建の6階なのですが、すごく揺れました。いわゆる長周期地震動ですね。私自身、地震防災の研究をしてきましたが、長周期の地震動は初めて経験しました。ものすごくゆっくりとした揺れが長く続いて、建物がギシギシ音を立てていました。エレベーターに誰かが閉じ込められたら困ると思ってすぐ担当者に電話をしたら、地震が起きたこと





■学生ボランティアの活動

1次隊：17名

7月2日 …… 田畑のがれき撤去
7月3日 …… ニューヨークのシェフによる炊き出しイベントの手伝い

2次隊：18名

8月10日、11日 …… 被災住居の片付け

3次隊：18名

9月17日 …… 小学校のグラウンド整備
9月18日 …… 河川敷の草刈り、整地作業



に全く気づいていませんでした。建物の固有周期と震動の同期の関係で、低層の建物はほとんど揺れていないんです。

脇川 8号館がある、旧教養地区の食堂の2階にいました。みんなでミーティングをしていたら、突然めまいがしました。他の人も同じように感じていたのでおかしいと気づき、携帯でニュースの映像を見てびっくりしました。

宮野 地震の揺れは周期特性によって違うんです。だから阪神大震災のときは逆に、高い建物はほとんど揺れなかった。あの時は短周期地震だったためです。



脇川 友紀子さん

震災直後から、市大として何をすべきか考えていた

脇川 宮野副学長は直後に被災地に行かれたとお聞きしました。そのときの話を教えてください。

宮野 被災地にある公立大学に何か支援できることはないかと調査に向かいました。地震が起きた一週間後の18日夕方に大阪を出発しました。19日に宮城県名取市へ行き、それから仙台市では県立の宮城大学、岩手県では岩手県立大学を訪ねました。その後、岩手県立大学の先生と一緒に宮古市田老地区^{たろう}に行き、帰ってきました。

脇川 では、震災が発生して以降、大学としてどのように取り組んでいったのかについて、お話しいただけますか。

西澤 まず、大学が最初にやらなければならないことは、学生教職員が被災していないかどうかの安否確認でした。それがいかに難しいかということが今回よくわかりました。ちょうど大学が春休みだったため、旅行している人がいる可能性もありまし



今尾 聖太郎さん

たし、自宅に連絡しても、一人暮らしであれば簡単には連絡がつかず、大変でした。そして、震災翌週には「東北地方太平洋沖地震連絡会議」を立ち上げました。その後は災害支援対策会議という名称に変えて、部局長の先生方にも入っていただき、被災地の大学に対する支援の方法を話し合いました。このように震災直後から情報を集め、「市大として何をすべきか」を考えてきました。

脇川 市大のボランティアセンターは募金活動からはじめました。震災が起きたその日にミーティングをしていたので、できることを話し合ったのですが、思い浮かぶものが募金活動しかなかったのが、大学最寄りのあびこ駅と杉本町駅で行いました。

今尾 僕も最初にニュースの映像を見たときに何かできることはないかと考えました。ですがボランティアで現地に行く手段もわからないし、現地での宿泊場所や食事の確保が自分だけでは難しいので、やっぱり募金しかないなと思って募金はしましたが、それ以外のアクションは起こせませんでした。

脇川 やっぱり何かしたいという気持ちがあっても、あれだけ大規模な災害は初めての経験ですから、「どうしたらいいかわからない」というのが素直な感想ですね。

棧 地震発生直後は入学手続きや下宿の準備に追われていました。できることは募金ぐらいしかなくて、何かしたいという思いよりも、これぐらいしかできないと思っていました。

田井 私も家族も被害は何もなく、まるでテレビの中で起きている別世界のこのような感じがしていま



宮野 道雄 副学長

した。ですが、もし大阪にこれが起きたら…と考えると、たとえば携帯が繋がらなくなるかもしれない。母親と連絡がとれなくなったときにどうするかを話しました。

ボランティアに参加して、他人事だった震災が自分のことのように

脇川 震災発生直後は被災地のことを考えると同時に、自分たちの防災についても考え始めた時期だと思いますが、それから第1次学生ボランティアを派遣する7月までの大学の動きはどうだったのでしょうか。

宮野 まず今回の地震が非常に広域で、被害の実態そのものがあまりつかめていませんでした。津波で流されてしまったこともあり、被災地が孤立して情報が入ってこなかったのです。それにこれまでの地震に比べて長い間大きな余震が続いていたため、すぐに現地に行くという決断ができませんでした。ようやく4月上旬になり現地でボランティアを受け入れる拠点ができはじめましたが、新学期がはじま



田井 温子さん

ったところでしたから学生もすぐには動けないだろうと考えました。そこで、まず先遣隊を被災地に送りました。現地の状況や受け入れてもらえるかどうかということを確認しておく必要があるからです。それが5月の下旬です。大阪市が釜石市に対口支援を行っており現地に事務所を持つことになったので、市大としても釜石市に行くのがいいだろうということになりました。そうして様々な情報を集めて準備をして、7月1日に第1次学生ボランティアを派遣することができました。

脇川 皆さんはそれぞれボランティアに応募して参加したわけですが、どのような経

大学として どのような支援を 行ってきたか



緯でボランティアに参加しようと決断したのでしょうか。

棧 市大がボランティアを派遣するというのは法学部の先輩から聞きました。実は話を聞いた時はあまり深く考えていませんでした。単純に「あ、行きたいな」と思って。現地に知り合いがいるとか、助けたいとか、そういう強い思いがあったというよりも、被災地に行って自分の目で見て鼻でにおいをかいで体感したいと思って参加を決めました。

脇川 第2次に参加した今尾さんはどうですか。

今尾 最初はテレビや新聞でボランティアを募集していると知って行きたいと考えていたのですが、研究もありますし学業がおろそかになってはいけなと悩んでいました。市大のホームページを見たときに、ボランティアを大学から派遣する、しかも2日間という限られた時間での募集ということを知り、これなら学業と両立



桐山 孝信 副学長

できると思い申し込みました。実際に現地に行って自分の目で見て感じることは沢山ありました。僕たちは津波被害にあわれた家の掃除を手伝わせてもらったのですが、写真や文集などが見つかる、今はがれきにしか見えないところに生活があったというのが自分の肌で感じられました。本当に貴重な経験でした。

田井 私も行きたいとずっと思っていました。助けに行きたい、人のために何かをしたいという気持ちはみんなあったと思います。たまたま掲示板を見たらボランティア募集のお知らせがあったので、すぐに申し込みました。ボランティアに参加したことは本当にいい経験になりました。現地に行って、当たり前ですがみんな同じ人間で、そこに生活があるということを感じる、そういう人と人とのコミュニケーションが嬉しかったです。

脇川 私も、学外の活動も含め2回ボランティアに参加して、同じようなことを感じました。他人事だと思っていたことが自分のこと

うに感じられたのが一番大きい変化だと思います。小さいけれど大きな第一歩で、そういう変化がないと何もはじまらないと思います。ボランティアに参加していない人たちにもぜひ自分のことのように考えてほしいと思いますが、そのためには自分たちの防災を考えるというのもアプローチのひとつではないでしょうか。

市大としての 今後の取り組み 「都市防災研究プロジェクト」

脇川 最後に、大学として今後どのように取り組まれていくのかをお聞きしたいと思います。

西澤 みんなで「震災を考える日」を作ろう、というのが第一でした。まず意識を持つことがすごく大切です。第一回の「震災を考える日」の取り組みは6月2日に防災訓練を行い、地域の方々も対象にした地域防災フォーラムを開催しました。本学は大阪市の広域避難場所に指定されており、地域の人たちにとっては災害時に利用する場所になります。防災は単に大学だけの問題ではなく、地域と一緒に考えていく必要があります。今回の震災では帰宅困難者が大量に発生しました。市大はちょうど大阪市内から堺方面に帰宅される方の通過点になりますから、その対応も必要になると考え

ています。様々なことが大阪市立大学の役割として求められると思います。いざというときに対応できるよう防災を考えるにあたって、いろんなステップを積み上げていかなくてはなりません。

桐山 たとえば近畿で災害が起きたときに、それに対して協力や助けあいができるのかということも教育のひとつだと思います。市大には約9000人の学生がいますから、災害時には大学としても社会としても重要な人材になってきます。そういったこともふまえ、もう少しアカデミックに組み立てていく必要がありましたので、宮野先生が企画されて全学的な研究プロジェクトを立ちあげました。

宮野 都市防災研究プロジェクトとして、22名の教員が取り組んでいます。3つのグループに分かれて研究を進めていますが、実質的に始まったのが7月ですのでこれから徐々に成果がでてくると思います。その成果を社会に還元するために研究会を始めています。11月にはこの3つのグループがそれぞれ講義という形で成果を発表する予定です。学生や地域の方々にも来ていただき、震災の実態や今後の復興・防災に向けてみんなで知恵を出し合っていく、そういう試みを今始めているところです。

西澤 大学だけではできないことも沢山あります。それを大阪市や、あるいはもっと大きく国に向けて提言をしていくことを目指しています。



棧 光司さん



大阪市立大学医学部附属病院による医療支援の取り組み

大阪市立大学医学部附属病院では、東日本大震災の被災地への医療支援として震災直後の3月12日に茨城県へ第一次DMAT隊6名を派遣、3月15日に大阪市総合医療センターと合同で岩手県釜石市へ第二次DMAT隊2名を派遣しました。また、引き続き岩手県釜石市及び大槌町へ医療救護班(3月20日～4月11日/第1次～第7次)を派遣しました。

そのほか岩手県釜石市へ神経精神科医師等からなる「心のケアチーム」を派遣、福島市の原子力災害現地対策本部へ複数被ばく者あるいは傷病者が発生した際の指導・助言等のため、医師を派遣しました。



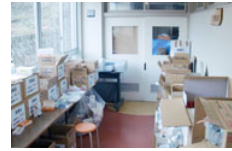
岩手県大槌町立安渡小学校に設けられた避難所で医療支援活動を行うDMAT隊。



大阪市DMAT隊

DMAT隊とは Disaster Medical Assistance Team

災害時に被災地に迅速に駆けつけ、救急治療を行うための専門訓練を受けた災害急性期(概ね48時間以内)に活動できる機動性を持った災害派遣医療チームです。



岩手県釜石市栗林小学校。校舎内に救護所を設け医療支援活動にあたった。廊下の一画には医療器具や医療品が並ぶ。

DMAT隊、医療救護班(3月・4月派遣)

派遣先：茨城県常陸大宮市、岩手県釜石市栗林小学校、大槌町安渡小学校

派遣期間	活動内容	職種/人数
平成23年3月12日(土)～14日(月)	DMAT隊第1次	医師：2名 看護師：2名 事務：2名
平成23年3月15日(火)～20日(日)	DMAT隊第2次	医師：2名
平成23年3月20日(日)～24日(木)	医療救護班第1次	医師：2名 看護師：2名 技師：2名
平成23年3月24日(木)～27日(日)	医療救護班第2次	医師：2名 看護師：2名 薬剤師：1名
平成23年3月27日(日)～30日(水)	医療救護班第3次	医師：2名 看護師：2名 技師：1名
平成23年3月30日(水)～4月2日(土)	医療救護班第4次	医師：2名 看護師：2名 事務：1名
平成23年4月2日(土)～4月5日(火)	医療救護班第5次	医師：2名 看護師：2名 技師：1名
平成23年4月5日(火)～4月8日(金)	医療救護班第6次	医師：2名 看護師：2名 技師：1名
平成23年4月8日(金)～4月11日(月)	医療救護班第7次	医師：2名 看護師：2名 技師：1名
平成23年4月10日(日)～4月12日(火)	医療救護班第7次 撤収班	薬剤師：1名 事務：1名

心のケアチーム(4月・5月派遣)

派遣先：釜石市 釜石保健所など

派遣期間	職種/人数
平成23年4月5日(火)～4月8日(金) 第2クール	医師：1名 看護師：1名
平成23年4月11日(月)～4月14日(木) 第4クール	医師：1名 看護師：1名
平成23年4月17日(日)～4月20日(水) 第6クール	看護師：1名
平成23年4月20日(水)～4月23日(土) 第7クール	医師：1名
平成23年4月23日(土)～4月26日(火) 第8クール	看護師：1名
平成23年4月26日(火)～4月29日(金) 第9クール	医師：1名
平成23年4月29日(金)～5月2日(月) 第10クール	看護師：1名
平成23年5月2日(月)～5月5日(木) 第11クール	医師：1名
平成23年5月5日(木)～5月8日(日) 第12クール	看護師：1名
平成23年5月8日(日)～5月11日(水) 第13クール	医師：1名
平成23年5月11日(水)～5月14日(土) 第14クール	看護師：1名
平成23年5月14日(土)～5月17日(火) 第15クール	医師：1名
平成23年5月17日(火)～5月20日(金) 第16クール	医師：1名 看護師：1名
平成23年5月23日(月)～5月26日(木) 第18クール	看護師：1名

原子力災害現地対策本部

派遣先：福島県福島市原子力災害現地対策本部(オフサイトセンター)

派遣期間	職種/人数
平成23年4月5日(火)～4月8日(金)	医師：1名
平成23年5月12日(木)～5月15日(日)	医師：1名

人工透析患者向けの避難所(大阪市)

派遣先：インテックス大阪

派遣期間	職種/人数
平成23年3月28日(月) 29日(火)	看護師：1名

掲載写真は第二次DMAT隊及び第一次医療救護班の活動時(3月15日～24日)の状況です。

○ 新たな形の
シェアサイクル



経済学部3回生

かわぐち かな
川口 加奈さん

Kana Kawaguchi

大阪が抱えるホームレス問題と放置自転車問題。それらを解決することをめざした新たなシェアサイクルの形を考えたのは、経済学部3回生の川口加奈さん。放置自転車を修理し街中でレンタルします。その修理作業や管理スタッフにホームレスを雇用するという「HUBChari(ハブチャリ)」プロジェクトです。川口さんは、Hom edoorというNPO法人を立ち上げて活動しています。「ホームレスの方に自転車の修理が得意な人が多いことに気づいたのが、このプロジェクトを思いついたきっかけです」

川口さんがホームレス問題に取り組み始めたのは14歳の時。通学時の乗換にJR新今宮駅を使っていたことをきっかけに興味をもち、釜ヶ崎の炊き出しボランティアに参加しました。

「はじめて炊き出しボランティアに参加したとき、おっちゃんに『ありがとう』と言ってもらいました。その優しい言葉を聞いたときに、自分が勝手に偏見を持っていたことに気づいてとてもショックを受けました」

ホームレスにまつわる様々な現実を知り、支援を続けるとともに、

同年代に向けた講演活動やワークショップの開催などを行ってきた川口さん。大阪市立大学に進学したきっかけも、市大が進んだホームレス研究を行っていることが理由だそうです。

「今は経済学部の福原宏幸先生の元で、労働経済論を学んでいます。活動は主に大学の授業が終わってからですね。忙しいですが、いろいろな人にサポートしてもらいながらなんとか続けています」

川口さんは、今後も様々なホームレスの自立支援システムを展開していくことを考えています。

馬術部に所属している商学部4回生の桜井貴史さんは今年、全日本学生馬術連盟の副幹事長として、運営に関わっています。全国学生馬術連盟に加盟している大学は、全国で約80校。毎年東京で行われている全日本学生三大大会が、今年は兵庫県での開催ということもあり、責任を感じる日々とのこと。

大阪市立大学に馬術部があることをそもそも知らなかったという桜井さん。馬に興味があったというわけではなく、新入生のときに勧誘を受けたことをきっかけに馬

術部に入部したそうですが、気がつけばすっかり馬が生活の一部に。「馬も人間と同じように熱中症にかかったり、腹痛を起こしたりします。土日に関係なく毎日世話をするのは大変ですが、やっぱり馬に乗るのは楽しいですね。大会に向けて、自分の担当している馬と一緒に信頼関係を築きながら努力していく過程がいちばん充実していると感じます」

馬術部の大会は3種目ありますが、市大馬術部はコース内に設置された障害物を飛び越えて通過する技術を競う、「障害飛越競技」が

メイン。飛び越えられずに避けたり、立ち止まったりしたりすると減点になります。

「入部してくる子はほとんどが初心者。先輩やOBの指導を受けて、1年をかけてようやく簡単な障害を飛び越えられるようになります。時間はかかりますがその分達成感も大きいです。馬の世話を通して部員同士の結束も固まりますし、みんなとっても仲が良いですね」

卒業してからもできる限り馬術部に関わりたいという桜井さん。OBとして現役選手の支援を続けていきたいと話してくれました。

○ 全日本学生
三大大会に向けて
～馬術部～



商学部4回生

さくらい たかし
桜井 貴史さん

Takashi Sakurai

○ 数学を使った
新しいゲームを
考案



数学研究所 所員

しみず あやか
清水 理佳さん

Ayaka Shimizu

結び目理論」とは数学の位相幾何学と呼ばれる学問の1つ。ひもの絡まり方を数学的に考える、という理論ですが、DNA構造の研究にも応用されており、近年注目されています。大阪市立大学数学研究所所員、清水理佳さん達の研究グループは、その結び目理論をもとに、新しいゲームを開発しました。

「領域選択ゲーム」は、ひもが絡まったような図形の囲まれた領域をクリックしていき、ひもの交点のランプを全て点灯させるゲーム。領域の選び方で点灯する場所が違う

ため、先を読みながら選んでいくのがポイント。交点の数で難易度が変わりますが、数学の理論をもとにしているのでどんな問題でも必ず解くことができます。

「今までも数字を使ったパズルは沢山ありますが、このゲームは数学の知識がなくても画面をクリックするだけで解くことができます。子供からお年寄りまで幅広く楽しめるゲームなので、今後は幼児教育や認知機能のリハビリなどにも応用を考えていきたいですね」と、清水さん。

結び目理論の歴史はまだ浅く、

誰も考えたことのないテーマを見つけて研究することができるのが魅力だそうです。

「数学は1人でやるものというイメージがあるかもしれませんが、いろいろな人と意見交換をしながら考える方が新しいことに気づきます。他大学の研究者とのセミナーや勉強会も頻繁に開催しています」

将来は女の子が憧れるような数学者になりたいとのこと。数学の魅力をたくさんの人たちに知ってもらい、今後はもっと女性数学者が増えてほしいと願っているそうです。

申込方法など、詳しくは担当までお問い合わせください

01 第2回 国際ラウンドテーブル会議「都市の世紀を拓く」国際シンポジウム 「災害後社会とアートによる地域マネジメント」

都市研究プラザと(財)大阪国際交流センターが協力し、都市が抱える様々な困難の解決策を探るため、都市の進むべき方向性について議論を行う国際シンポジウムです。

第2回となる今回は、「災害後社会とアートによる地域マネジメント」をテーマとして、これまで都市研究プラザが研究対象としていた「アートによる復興」の実践について、今年起こった東日本大震災を含め「災害」の衝撃から地域社会が再生するためにアートがどのような役割を果たせるのかを考えます。

エキシビションでは全国的にも重要な伝統芸能であり東日本大震災で上演の場を失った陸中(岩手県)の鶺鴒神楽(うのとりにかぐら)を招へいます。またそれを受け盛岡大学 橋本裕之教授による「地域社会と芸能—陸中の神楽—」と題した基調講演を行います。

【日時】平成23年12月1日(木)午前10:30~2日(金)午後5:30
【場所】大阪国際交流センター(大阪市天王寺区上本町8-2-6)

【定員】各セッション300名(先着順・11月21日(月)締切)

【費用】無料

【申込方法】はがき、FAX、ホームページ

【プログラム】

●12月1日(木)

- セッション 1 インドネシアや東日本などの国内外の事例報告
- 2 市民ワークショップ「大阪発アートによる心のケアとコミュニティの再生」
- 3 専門家会議「アカデミアと社会との対話」
- 4 エキシビション「鶺鴒神楽(うのとりにかぐら)」公演 解説:橋本裕之(盛岡大学)

●12月2日(金)

- セッション 5 研究報告
- 6 基調講演「地域社会と芸能—陸中の神楽—」盛岡大学 橋本裕之教授
- 7 シンポジウム「災害後社会とアートによる地域マネジメント」の発信へ向けて

お問い合わせ 都市研究プラザ 電話:06-6605-2071



02 大阪市立大学都市問題研究「大阪市立大学と恒藤恭」連続シンポジウム 第2回「近代日本の都市と大学—創設期大阪市立大学と恒藤恭—」



大学史研究の第一人者寺崎昌男氏による近代日本の都市と都市に関する基調講演を軸に、大阪市立大学創設期の制度的側面、初代恒藤恭学長の思想的側面の報告を交えて、都市が大学を持つ理由を歴史的に探ります。

【日時】平成23年12月3日(土)午後1:00~4:30(開場12:30)

【会場】学術情報総合センター1階 文化交流室

【定員】84名(先着順) 【費用】無料 【申込】不要

お問い合わせ 大学史資料室 電話:06-6605-3371

03 第158回 市民医学講座 「五十肩の治し方」

【日時】平成23年12月13日(火)午後6:10~8:00

【会場】医学情報センター(あべのメディックス)

【講師】伊藤陽一准教授(整形外科学)

【対象】18歳以上の方

【定員】150名(11月24日申込締切)

【費用】受講料無料、希望者のみ資料代実費

【申込方法】往復はがき、ホームページ

お問い合わせ 医学情報センター
電話:06-6645-2742

●この他、本学が主催しているイベント情報等についてはホームページ <http://www.osaka-cu.ac.jp> をご覧ください。

10月以降の 学生募集要項配付について

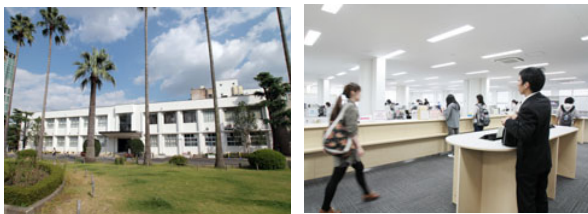
学部一般入試募集要項、大学院入試の学生募集要項などを下記のとおり配付する予定です。学生支援課入試担当の窓口で配付するほか、郵送でもご請求いただけます。資料請求方法など、詳細は本学ホームページでご確認ください。
<http://www.osaka-cu.ac.jp/>

学 部	■一般入試 ▶ 11月下旬	■私費外国人留学生入試 ▶ 11月中旬	■科目等履修生 ▶ 2月上旬
大 学 院	前期博士課程(修士課程)		
	■一般入試・外国人留学生入試(経済学研究科、法学研究科、文学研究科、理学研究科、生活科学研究科) ▶ 11月下旬		
	■社会人入試(経営学研究科) ▶ 10月下旬 (法学研究科、文学研究科、理学研究科、生活科学研究科) ▶ 11月中旬		
	■創造都市研究科 ▶ 11月上旬 ■科目等履修生 ▶ 2月上旬		
	後期博士課程		
	■一般入試・外国人留学生入試(経営学研究科、経済学研究科、法学研究科、文学研究科、理学研究科、工学研究科、生活科学研究科) ▶ 11月下旬		
	■一般入試・外国人留学生入試(医学研究科 第2次) ▶ 11月中旬		
	■一般入試・社会人入試(看護学研究科) ▶ 11月中旬		
	■社会人入試(経済学研究科、文学研究科、理学研究科、工学研究科、生活科学研究科) ▶ 11月中旬 ■創造都市研究科 ▶ 11月上旬		

学生サポートセンターが オープンしました!



学生サポートセンターは、これまでキャンパス内に分散していた学生窓口を集約し、ワンストップサービス等学生サービスの充実をめざして平成23年10月にオープンしました。サポートセンターでは、学生を対象に履修や教職課程、奨学金・授業料減免、就職、課外活動、留学相談、ボランティア活動支援など、入学から卒業までの学生生活に関わる各種相談や手続きを行っています。



学生サポートセンター 開室時間/8:45~17:15(土・日・祝日は閉室)

大阪市立大学広報誌

CITY
X
UNIVERSITY

Vol.9

発行：公立大学法人 大阪市立大学
企画・編集：大学広報室
デザイン協力：desk
印刷：竹田印刷株式会社
発行日：2011年11月

本誌に関するお問い合わせ・ご意見・ご感想は
大阪市立大学 大学広報室
〒558-8585 大阪市住吉区杉本3-3-138
tel:06-6605-3411 fax:06-6605-3572
e-mail: koho@ado.osaka-cu.ac.jp

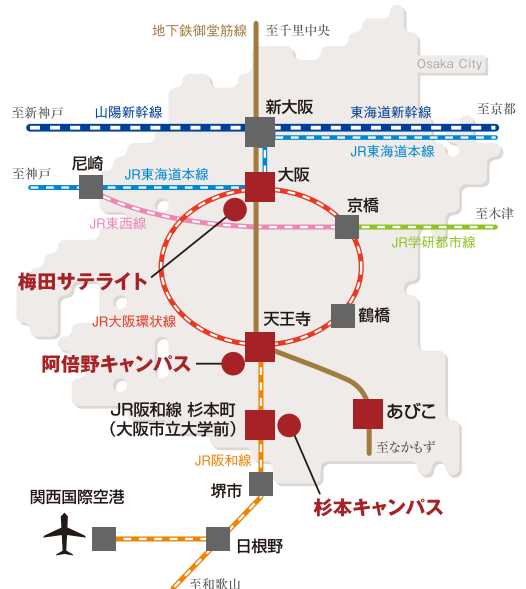
本誌に掲載の写真および原稿の無断転用を禁じます

都市で学び、夢をつかむ



公立大学法人
大阪市立大学
OSAKA CITY UNIVERSITY

アクセスマップ



杉本キャンパス

商・経・法・文・理・工・生活科学 各学部・各大学院研究科・本部
〒558-8585 大阪市住吉区杉本3-3-138

阿倍野キャンパス

医学部・大学院医学研究科・大学院看護学研究科・医学部附属病院
〒545-8585 大阪市阿倍野区旭町1-4-3

梅田サテライト

大学院創造都市研究科・文化交流センター
〒530-0001 大阪市北区梅田1-2-2-600 大阪駅前第2ビル6階

<http://www.osaka-cu.ac.jp>